

令和8年度第1回チーム担任制に係るアンケート結果

目的：チーム担任制がどのように機能しているかを確認し、児童・保護者・教職員の視点からその効果の検証を図る。

★児童の調査結果★

対象者：日光市内小学校全児童

※ただし、低学年は実施状況、発達段階等を考慮した上で回答のため、実施していない学校もある。

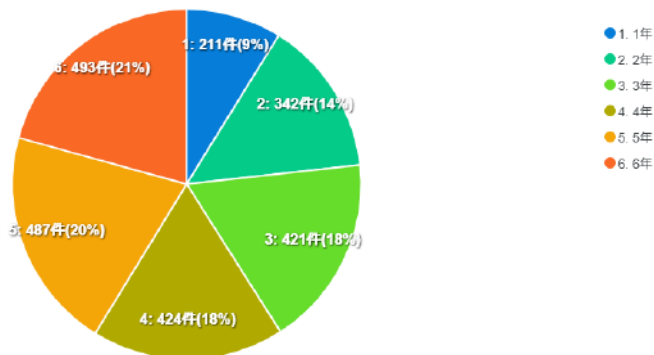
実施期間：令和8年7月1日（水）～7月10日（金）

アンケート内容：次の2つの観点から質問

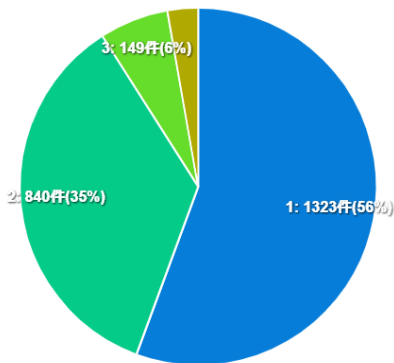
（1）児童の学習環境の変化について（学びやすさ、質問のしやすさ等）

（2）児童と教職員の関係性の变化について（相談のしやすさ、コミュニケーションの質等）

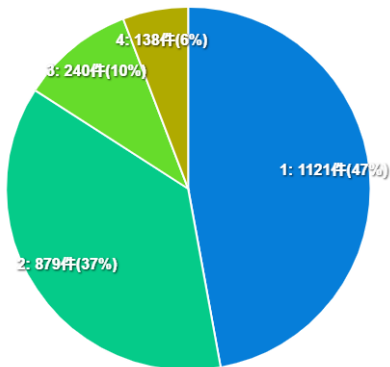
回答児童：次のとおり



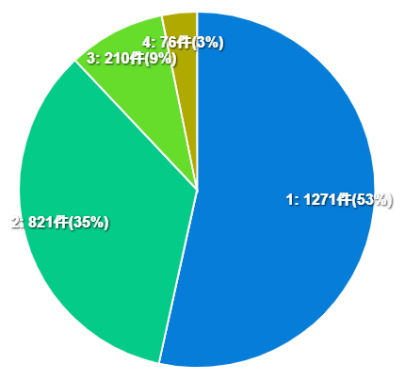
①主な担任の先生以外の先生と知り合う機会（きっかけ）が増えた。



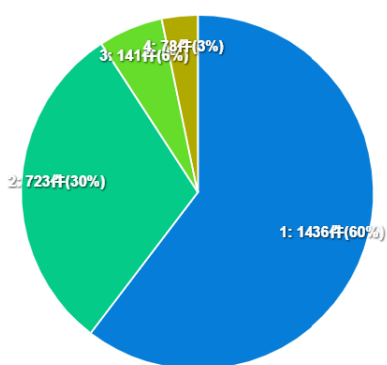
②学習や生活の困ったことを相談できる先生が増えた。



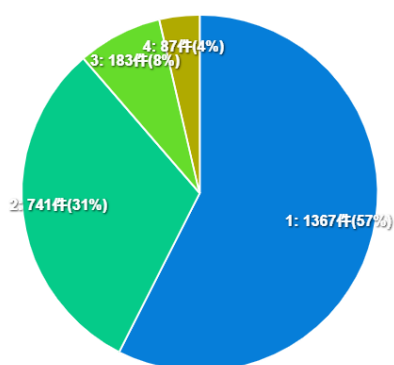
③学級の居心地がよかった。



④わかりやすい授業が増えた。



⑤チーム担任制は効果的である。



- 1. ア 「はい」
- 2. イ どちらかといえば「はい」
- 3. ウ どちらかといえば「いいえ」
- 4. エ 「いいえ」

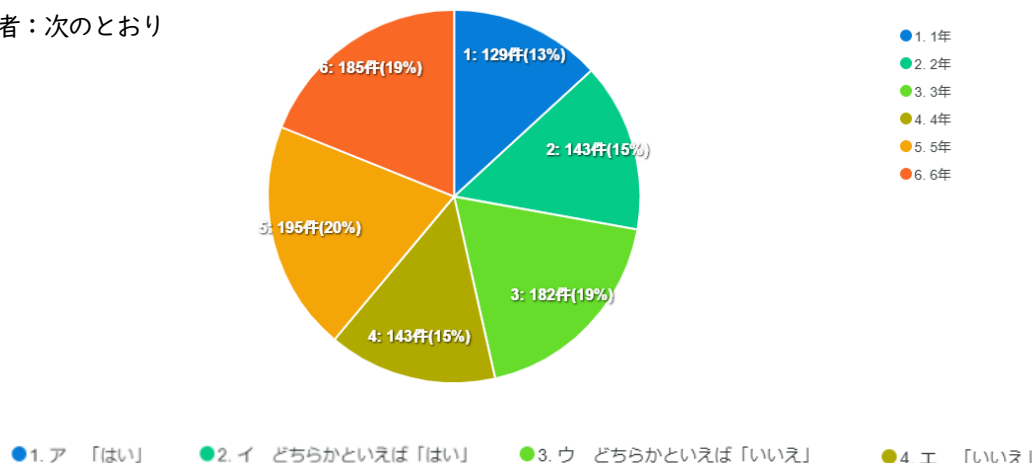
★保護者の調査結果★

実施期間：令和8年7月1日（水）～7月10日（金）

アンケート内容：次の3つの観点から質問

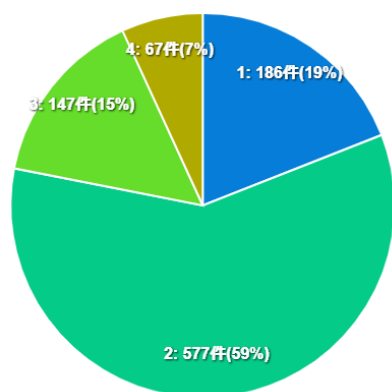
- （1）児童の学習環境の変化について（学びやすさ、質問のしやすさ等）
- （2）児童と教職員の関係性の変化について（相談のしやすさ、コミュニケーションの質等）
- （3）保護者と教職員の関係性の変化について

回答保護者：次のとおり



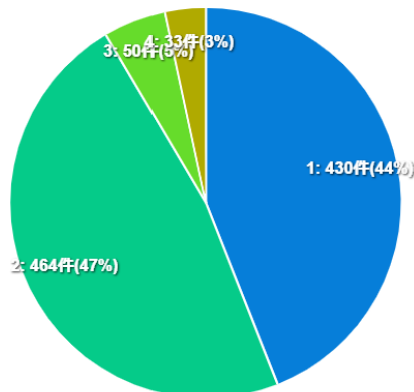
（1）児童の学習環境の変化について

①子どもがわかりやすい授業が増えたと感じている。

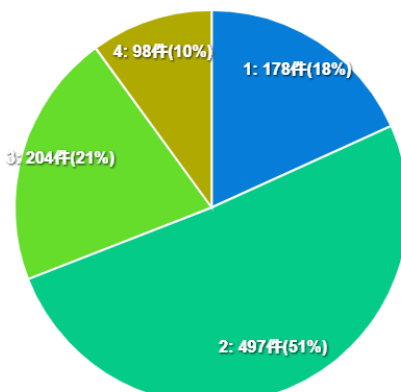


（2）児童と教職員の関係性の変化について

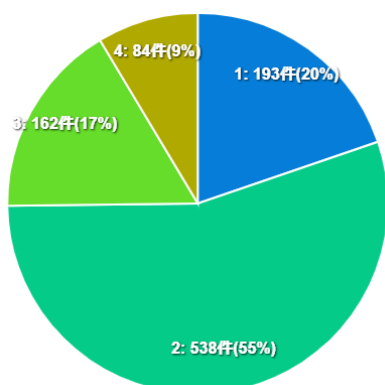
①主な担任以外の先生と子どもが知り合う機会が増えた。



②子どもが学習や生活の困ったことを相談できる先生が増えた。

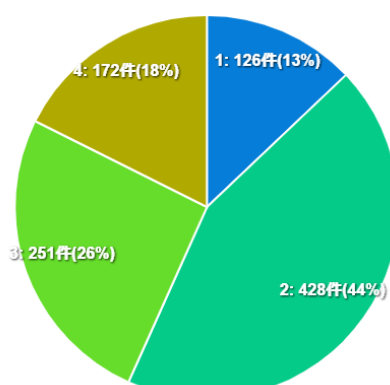


③子どもが学級の居心地がよくなったと感じている。

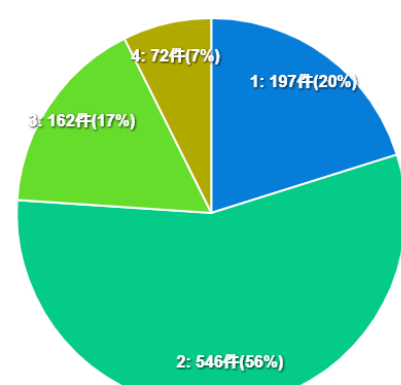


（3）保護者と教職員の関係性の変化について

①保護者が子どものことを相談できる先生が増えた。



（4）その他
チーム担任制は効果的である。



保護者からのお気づきの点：

○ “よい点”

① 多様な教師との関わりが増えた。 →子どもは異なる視点・専門性から学びやすくなり、興味・関心が広がる。	・色々な先生とコミュニケーションが取れていい。 ・子どもがたくさん先生と触れ合える。 ・先生の専門性に触れられ、学びが深まった。
②相談できる相手が増えた。 →児童が困ったときに「誰でも」相談できる安心感が醸成される。	・相談できる先生が増えて、子どもが好きな先生に相談できる。 ・いろんな先生と話せるようになって安心感が増した。 ・主担任が休んでも安心。
③子どもの視野が広がる。	・さまざまな価値観に触れられる。 ・チームで見てくれるので見逃しが減る。
④子どもの成長に対する多面的評価ができる。	・一人の目で見るとより複数の方の目が届いたり、見方の違いなどもあつたりするのでよい。
⑤学習の質向上への期待。 →教科別の専門教師が指導にあたることで、学習効果が高まる可能性。	・その教科に詳しい先生が担当になり、授業が分かりやすくなる。 ・専科の先生がいることで興味が広がる。 ・学びが楽しくなる。
⑥子どもの自立・選択肢拡大。 →児童が自分に合った大人を選べることで、自己肯定感が上がる。	・話しやすい先生が増えて子どもが相談先を選べる。 ・苦手な担任がいても別の先生に相談できる。
⑦学校全体の「チーム力」向上。 →学校組織としての一体感が醸成され、保護者にもその雰囲気が伝わる。	・先生同士の連携が進んだ。 ・先生同士が情報を共有してくれる。 ・学校全体で子どもを見守ってくれる。
⑧教員側の負担軽減（期待）	・一人にかかる負担が分散される。 ・チームで分担できるので急な休職でも対応できる。

▲ “課題” “懸念点”

①誰に相談すればよいかわからない	・どの先生に話せばいいかわからない。 ・担当が変わるたびに混乱する子もいる。
②担任の継続性・信頼感が薄れるのではないかな。	・落ち着かなくなる子もいる。 ・担任と子どもの関係が希薄になるのではないかな。
③情報共有の抜け漏れ	・子どもの情報が他の先生に伝わっているか不安。 ・健康・アレルギー情報の共有がなされているか不安。
④チーム構成・役割が見えにくい。	・チーム担任の仕組みが分からない。 ・「誰がどの科目・時間帯を担当」等の情報が分からない。 ・トラブル時に誰が対応してくれるのか不明。
⑤教師の質・指導のばらつき	・先生ごとに許容範囲が違うのではないかな。 ・宿題の量が先生によって大きく変わる。
⑥目に見える効果が不明	・制度の変化が分からない。 ・学校生活の変化を実感できない。
⑦子どものストレス	・苦手な先生との関わりが増える。 ・先生によって授業の厳しさが変わるのではないかな。
⑧教員側の負担増	・会議・打合せが増えて授業準備が減るのではないかな。 ・チームでも主担任が過重になるのではないかな。

★教職員の調査結果★

実施期間：令和8年7月1日（水）～7月10日（金）

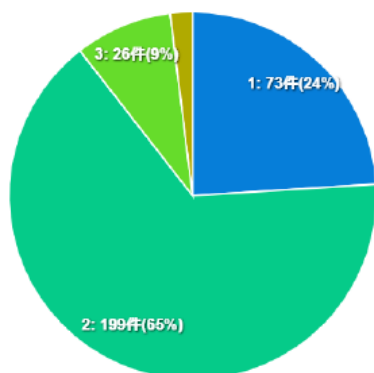
アンケート内容：次の3つの観点から質問

- （1）児童の学習環境の変化について（学びやすさ、質問のしやすさ等）
- （2）児童と教職員の関係性の変化について（相談のしやすさ、コミュニケーションの質等）
- （3）教職員の指導体制の充実度について（協力のしやすさ、業務負担の変化等）

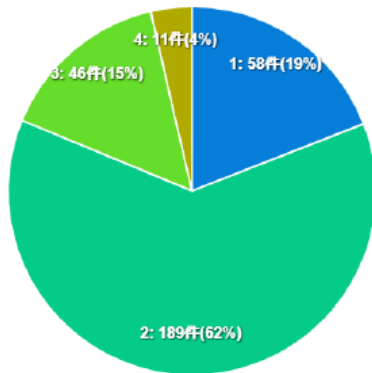
● 1. ア 「はい」 ● 2. イ どちらかといえば「はい」 ● 3. ウ どちらかといえば「いいえ」 ● 4. エ 「いいえ」

（1）児童の学習環境の変化について

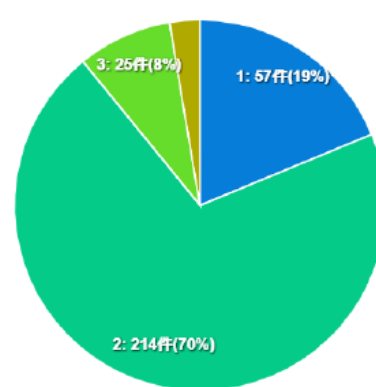
①多様な個性をもつ子どもに対して、
きめ細やかな指導・支援が可能になった。



②学級経営状況が向上した。

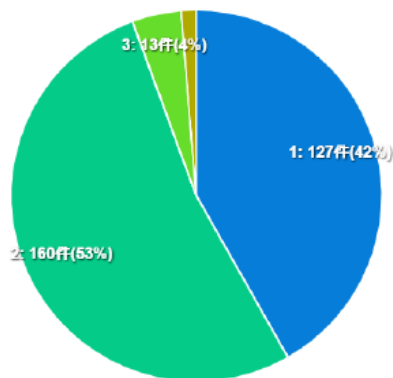


③授業の質が向上した。

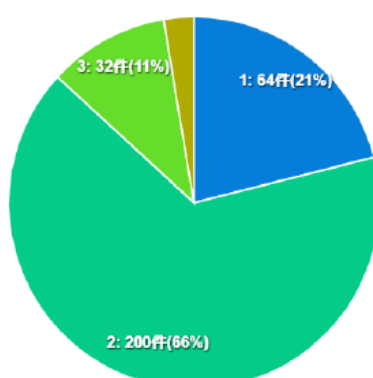


（2）児童と教職員の関係性の変化について

④授業以外にも、子どもにとって
効果的な場面があった。

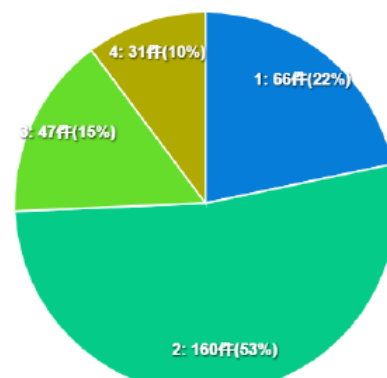


①不登校やいじめなどの未然防止に
効果があった。



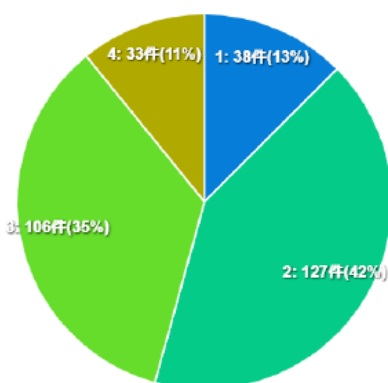
（3）教職員の指導体制の充実度

①教職員の精神的な負担が減った。

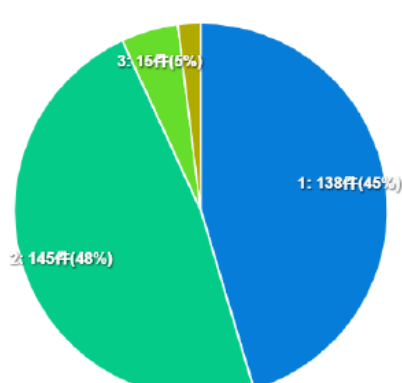


（4）その他

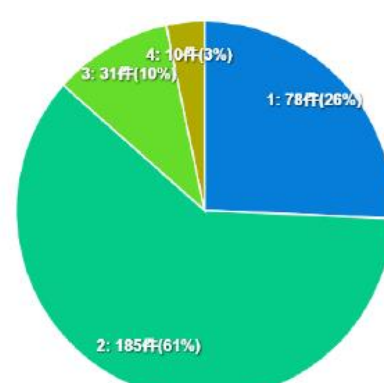
②教職員の時間的な負担が減った。



③他の教員から学ぶ機会が増えた。



①チーム担任制は効果的である。



先生方から：

（成果）

○児童への多面的な支援： 複数の教員が児童を観察・指導できるため、一人ひとりの全体像がつかみやすくなる。

○教員間の情報共有・協働：朝の会・給食・帰りの会をチームで回すことで、情報が横断的に伝わりやすくなる。

○若手教員の成長機会：異なる学年・科目を経験でき、スキルの幅が広がる。

○専門性の活かしやすさ：特別支援学級の担任だけでなく、全教員が支援スキルを共有できる。

○学校全体の風通し向上：チームで方針や課題を議論する機会が増え、意思決定が透明になる。

○学年・学年ブロック単位での指導統一：学年会やブロック会で方針を統一しやすくなる。

○業務の分散化（一部実感）：ある教科だけを専門教員が担当し、担任の負担が軽減されるケースあり。

（課題）

▲業務負担の増大：会議・打ち合わせ・情報共有の時間が増え、授業準備や教材研究の時間が圧迫される。

▲役割・責任の曖昧さ：事故・トラブル時の担当者が不明確、保護者連絡や健康観察の伝達が滞る。

▲児童の安心感・安定感の低下：担任が頻繁に変わることで、子どもの落ち着きが失われる。

▲時間割・授業編成の複雑化：学年ブロックやチーム間での時間割調整が難しく、柔軟な対応がしにくい。

▲情報共有の非効率：複数の職員・チーム間で情報を共有する手順が煩雑。

▲隙間時間のトラブル：教科担当と担任が別になることで、移動時間・不在時間が増える。その隙間時間に児童のトラブルが生じる。

▲制度理解・浸透の不足：教職員の認識がバラバラで、共通理解が得にくい。